

平成28年度第2回「仙北市地域医療計画」策定委員会

議事録（発言要旨）

- ◆日時 平成29年3月15日（水）午後6時
- ◆場所 市立角館総合病院 第1・2会議室
- ◆出席者 管理者（委員長）、副管理者、大曲仙北医師会角館ブロック会長、同副会長、西明寺診療所長、市立角館総合病院長、市立角館総合病院看護部長、市立田沢湖病院看護師長、両病院事務長、総務部長、市民生活部長、包括支援センター所長、事務局：医療局（局長、医療管理課長、医療管理係長）
- ◆案件 (1) 前回議事要旨の確認
(2) 仙北市地域医療計画の策定について（まとめ）
(3) その他

1. 開会（18:00）

- 事務局（局長）
資料の確認、開会

2. 委員長あいさつ

3. 案件（1）前回議事要旨の確認

- 事務局（医療管理課長）

本日配布した議事録については、委員の皆様から事前にご確認いただき、修正を行ったうえで、お配りさせていただいた。更に修正等があれば、事務局へお申し付けいただければと思う。ホームページ上に掲載したいと考えており、ご理解をお願いします。

4. 案件（2）仙北市地域医療計画の策定について（まとめ）

- 事務局（医療管理課長）

（前回から変更した箇所について、新旧対照表を用いて説明）

- 事務局（医療管理課長）

（今後の進捗管理について説明）

地域医療計画の中にあるとおり、年2回、半期ごとの病院の改革プランに基づく進捗状況、これは以前あった改革推進計画と同じように、この委員会の中で検証していただきたい。なお、第1章から3章までの現状と課題については、進捗状況を見ながら進めていくしかないと思っている。具体的には両病院の改革プランの進捗状況の検証が、メインになってくると思う。

○委員長	ワンランク下のアクションプランがなければ、この計画だけでは進捗管理していくのは大変ではないか。
○事務局（医療管理課長）	ある程度両病院との連携を図りながら経営分析を進め、目標が達成できない場合はその要因が何なのか、というような経営分析をしなければいけないと思っている。
○副管理者	<p>医療環境というのは、人口が減少する中で収益を上げるにしても、どんどん悪くなってきている。その中でどういう施策でやっていくのか。市としては住民に対してどういう医療を提供したいのか、あるいはやっていく力があるのか。そういうのを基盤に考えないと、現状維持で市としてできているのだろうか。その中でいかに医療を維持していくかということに重点を置かなければいけない。</p> <p>在宅医療は秋田県ではやっていけない。秋田市であっても非常に苦しい。そういった意味で、国が東京を基準に言うてくるのに対して、市としてそれを丸呑みにしていれば、おそらく将来は成り立たなくなる。市がやれること、最低限確保するところを目標にしていけないと、必ずどこかで破たんするだろうと心配している。この計画というのは、ほとんど現状の中でできるという基盤で作っているが、おそらく思いのほか状況は悪くなると思う。</p>
○委員長	平成29年の地域医療構想の運営協議会が始まるが、二次医療圏の中で、どこまで機能を維持していくかという個々具体的な話しが出てくるというのが必須である。その際に、計画自体を変えていくのか、あるいは非常に大きな項目で将来像が出来上がっているの、その下のアクションプランの中で、病床であるとか機能であるとか、それに応じてどんどんローリングしていかなければ、これが意味のないものになってしまう。そこが肝心なところだ。これはあくまでも基本的な考え方・位置付けだということで、我々自体が意識しておかなければいけないことだ。常に変わっていく、それからあくまでも基本の基本だということで、非常に速いスピードで将来数値は変わってこざるを得ない状況であり、常に柔軟な対応が必要なんだと意識として持たなければならぬ。
○大曲仙北医師会角館ブロック会長	以前にこうした計画を立てたときも、検証委員会を開いていたが、当然そういったことを考えているのか。
○事務局（医療局長）	この会議の中で検証等を行っていきたい。以前の改革推進計画では、市民の方々の検証委員会と先生方を中心とした専門委員会と二つの委員会から検証していただいた経緯がある。出席率等の問題もあり、今回はあくまでも策定委員会の中で検証を行って、ローリングしていきたいと考えている。
○委員長	策定委員会という名称だが、検証も担っていくということか。
○事務局（医療局長）	はい。
○大曲仙北医師会角館ブロック会長	以前のものは5年計画で、その中でいろいろ状況が変化しているのにも関わらず、当初の計画の見込みについてどうであったという説明に終始してしまっていたような形があり、これ意味あるのかなというような内容もかなり

	あったと思う。あまり数値に捉われないでやっていくようなことが必要ではないか。
○包括支援センター所長	これが基本的な部分の総合的な話しだということで。今後検証も含めて進めていくということであったので、進めていただきたい。いずれアクションプランという形で、より具体的なものがないと検証するにしても難しいものがあるでしょうし、そこら辺をきっちりやっていかなければならないと思っている。
○委員長	在宅医療に関してのここなりの考え方、包括支援センターも含めてやっていながら整理が必要。それは医療・介護連携の場でも同じことが言える。そこは協力・連携してやっていかなければならない。
○包括支援センター所長	都会を例にとり進めていると思うが、秋田県内、特に仙北市は在宅医療をやるにもなかなか難しい環境にあるので、そこら辺は仙北市なりの、包括支援センターが進めている在宅医療介護連携推進協議会の中でも、きちんと具体的なところを出していかなければいけない。
○西明寺診療所長	私は訪問診療やらせてもらっているが、それも病院のバックアップがあってこそ、つまり病診連携ということだ。病診連携ができていれば、病院としては地域包括ケアができています。
○委員長	在宅医療もいろんなやり方があるが、訪問看護はなかなか数が少ない。病院から訪問看護という選択肢もある。田沢湖、角館に限らず、いつかはそういうもののニーズも出てくることも考えられるが。現実問題としてどうか。
○田沢湖病院看護師長	田沢湖地区に関しては、高齢化率日本一ということで、老老介護、独居老人が多数いる。90代の親を70代の息子が支えているというような感じで、現在往看の患者は10人を割っている。このまま人口減少が進むと、やはり成り立たなくなると考えている。

5. 案件（3）その他

（なし）

6. 閉会（18：40）